

平成27年3月期 第1四半期

平成26年4月1日～平成26年6月30日

補足説明資料

平成26年7月30日（水）

デジタルアーツ株式会社

（証券コード2326）

平成27年3月期 第1四半期業績

売上高 673百万円 (前年同期 +3.5%)

経常利益 35百万円 (前年同期 +79.2%)

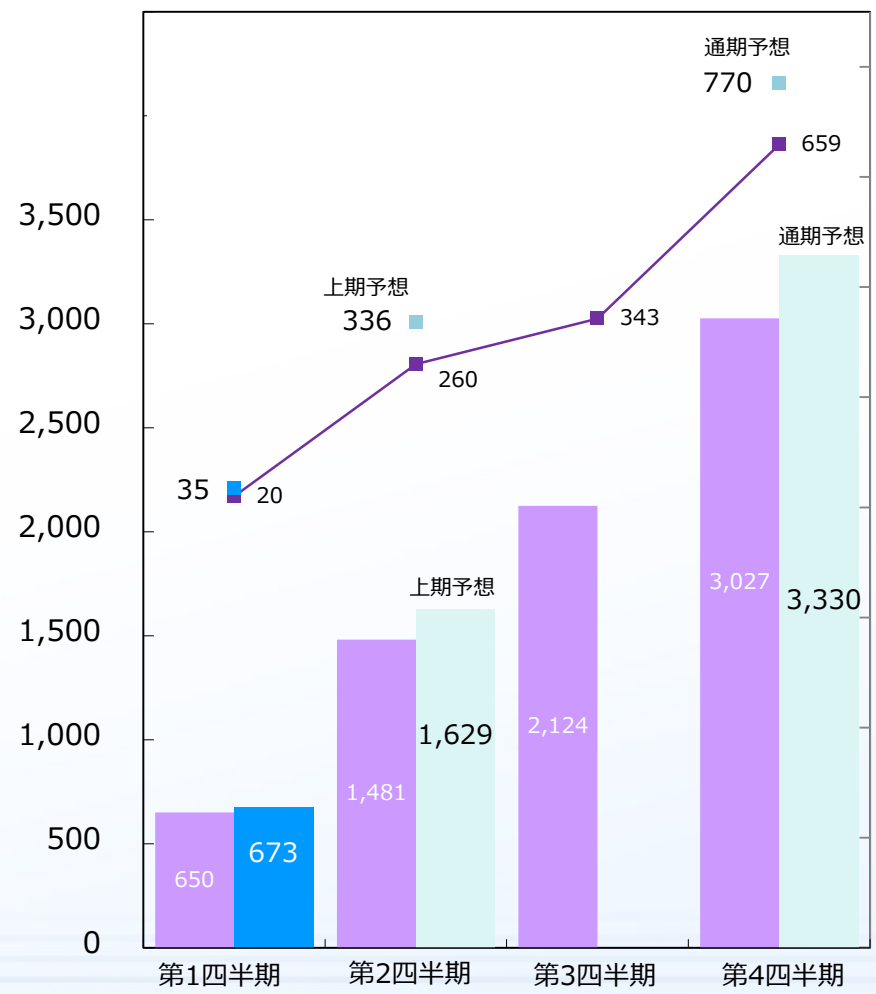
(単位：百万円)

連結	平成26年3月期	平成27年3月期	
	第1四半期 (実)	第1四半期 (実)	前年同期
売上高	650	673	+3.5%
営業利益	17	35	+108.3%
経常利益	20	35	+79.2%
四半期純利益	11	16	+33.9%

業績の推移 (連結)

(単位：百万円)

平成27年3月期 ■：売上 ▲：経常利益
 平成26年3月期 ■：売上 ▲：経常利益



第1四半期実績)
 売上高 : 前年同期 +3.5%
 経常利益 : 前年同期 +79.2%

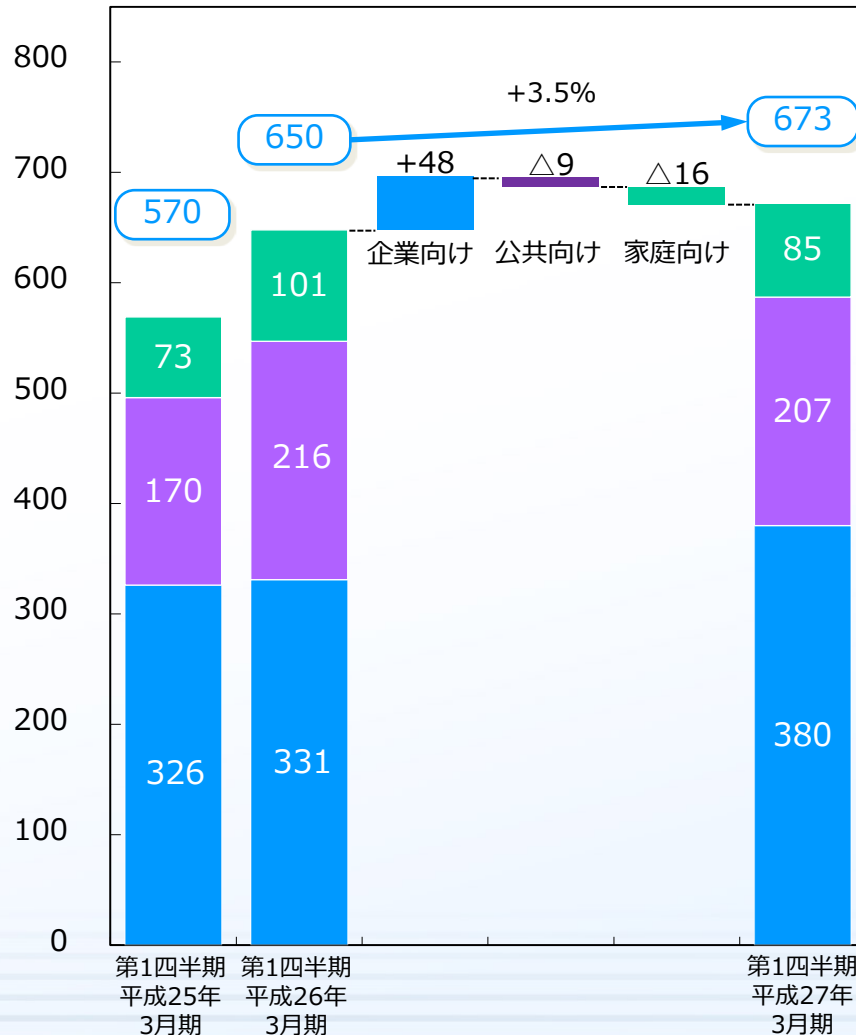
進捗率)
 売上高 : 上期予想比 41.2%
 通期予想比 20.2%
 経常利益 : 上期予想比 10.6%
 通期予想比 4.6%

※平成27年3月期の予想は、平成26年5月9日公表の業績予想

市場別売上高の推移（連結）

(単位：百万円)

■ 企業向け市場 ■ 公共向け市場 ■ 家庭向け市場



企業向け市場：380百万円(+48百万円 +14.5%)
 公共向け市場：207百万円(△9百万円 △4.2%)
 家庭向け市場：85百万円(△16百万円 △16.1%)
 全体：673百万円(+22百万円 +3.5%)

売上原価と販売費及び一般管理費の状況



売上原価 228百万円 (前年同期 +13.4%)

販売費及び一般管理費 408百万円 (前年同期 △5.3%)

売上原価の増加は、新製品開発・発売に伴う減価償却費の増加などによるものです
今後の成長に向けての投資として、概ね計画通りに推移いたしました

(単位：百万円)

連結	平成26年 3月期	平成27年3月期			
	第1四半期 (実)	第1四半期 (実)	前年同期	前年同期 増減額	主な増減要因
売上原価	201	228	+13.4%	26	
労務費	96	93	△3.2%	△3	
減価償却費	60	82	+35.5%	21	新製品発売に伴う減価償却費の増加
他勘定振替その他製造原価	44	52	+19.2%	8	「D-SPA」の販売増加によるサーバー機器の仕入れ増
販売費及び一般管理費	431	408	△5.3%	△22	
人件費	214	189	△11.6%	△24	管理部門の人員減
広告宣伝費	67	61	△9.9%	△6	広告費減
その他	149	158	+5.8%	8	営業人員増に伴う旅費交通費増、海外展開関連費増

■ 企業向け市場のトピックス

- 企業向け市場における売上高は380百万円（前年同期 +14.5%）

ハイライト)

- 「i-FILTER」(前年同期 +3.6%)、「m-FILTER」(前年同期 +7.8%)および「D-SPA」(前年同期 +204.6%)は、前年同期を超えて推移
- Webアプリケーション制御に加え、従来オプション製品であった「SSL Adapter」並びに「Log Search」を標準搭載したサーバー版「i-FILTER」Ver.9を、新たな価格体系にて既存および新規のお客様に対して販売開始
- 「i-FILTER」と「m-FILTER」のクラウド版は、順調に推移（前年同期 +15.3%）
- 「i-FILTER」のモバイル端末版は、順調に推移（前年同期 +43.1%）
- 平成25年7月にNRIセキュアテクノロジーズ株式会社より譲り受けた「Mail Adviser」等は、堅調に推移
- 「FinalCode」は、前期よりテスト導入をいただいている潜在顧客への販売が徐々に進み始める

■ 公共向け市場のトピックス

- 公共向け市場における売上高は207百万円（前年同期 △4.2%）

ハイライト)

- 「m-FILTER」(前年同期 +5.6%)は、公共団体への販売が進む

ローライト)

- 「i-FILTER」(前年同期 △5.7%)は、官公庁への販売が進んだものの、前年同期における文教向けの複数のまとまった受注の影響により販売が減少

■ 家庭向け市場のトピックス

- 家庭向け市場における売上高は85百万円（前年同期 Δ 16.1%）

ハイライト)

- ▶ ゲーム機/TV版（前年同期 +6.3%）と堅調に推移

ローライト)

- ▶ モバイル端末版(前年同期 Δ 34.1%)は、携帯電話事業者へのOEM提供による販売が好調に推移したが、前期に店頭での販売施策を見直し収益性改善を図った結果、販売が減少
- ▶ パソコン版(前年同期 Δ 9.5%)は、小規模事業者を含めフィルタリングサービスを提供していた一部ISPによるフィルタリングサービス提供の終了により販売が減少

■ 海外関連市場のトピックス

ハイライト)

- ▶ 「FinalCode」のグローバル販売に向けた活動を開始
 - ✓ 米国における「FinalCode」のマーケティング活動およびブランディング活動
 - ✓ 中・長期的な事業プランの立案

■ 企業および公共向け製品トピックス

i-FILTER (サーバー版)

平成26年4月1日より、Webアプリケーションのフィルター機能を新たに搭載した「i-FILTER」ver.9の販売開始

- 従来のオプション機能や新機能を標準搭載。オプション機能単独購入よりも割安にしつつ、高価格設定した新価格
- 急速に注目されているシャドーITの課題であるWebサービスの業務利用の制御に対応

i-FILTER (モバイル端末版)

平成26年4月8日より、フィルタリング機能やWebアクセスの可視化機能の強化した「i-FILTER ブラウザー & クラウド」Ver.3.5の販売開始

- 業界最高水準のフィルタリングDB搭載、OSを選ばない柔軟な対応
- i-FILTER (サーバー版) との連携を強化した製品の提供

m-FILTER (サーバー版)

平成26年6月18日より、GmailやOffice 365などのクラウドメールにも対応した「m-FILTER」Ver.4の販売開始

- クラウドメールの標準機能では十分ではないメールセキュリティ需要に対応
- 英語の他、中国語、ロシア語、アラビア語、韓国語等の言語をカバー

■ 企業および公共向け製品トピックス（続き）

FinalCode

平成26年6月3日より、オンプレミス版サーバーDB対応強化とクライアント処理速度が大幅アップした「FinalCode」 Ver.4.1の販売開始

- ▶ データベースサーバーに「Oracle Database 12c」「PostgreSQL 9.3」を追加し、大規模運用の企業への対応が可能
- ▶ iOS端末から「FinalCode」で暗号化されたPDFファイルが閲覧できる専用の無料ビューワアプリ「FinalCode Reader」を提供

■ 家庭向け製品トピックス

i-フィルター

平成26年5月より、株式会社ミキハウス アンド 小学館プロダクションの幼児教室「キッズパル」でインターネットリテラシー教育を開始

- ▶ デジタルアーツ監修の元、幼児及びその保護者に対し、インターネットのリテラシーやWebフィルタリングの重要性についての教育を開始

平成27年3月期 通期業績の予想

<平成26年4月1日～平成27年3月31日>

 DigitalArts.

平成27年3月期連結会計期間の

売上高は 33.3億円（前年同期 +10.0%）

経常利益は 7.7億円（前年同期 +16.7%）の予想です

※なお、費用には、新たに米国子会社に関する費用として、120百万円が含まれております

今後、重要な変化がある場合は適切に開示してまいります

（単位：百万円）

連結	平成26年3月期	平成27年3月期	
	通期（実）	通期（予）	前年同期
売上高	3,027	3,330	+10.0%
上期	1,481	1,629	+10.0%
下期	1,545	1,700	+10.0%
営業利益	653	767	+17.5%
経常利益	659	770	+16.7%
当期純利益	399	461	+15.4%

本プレゼンテーション資料に記載されている計画、戦略、財務的予測のうち歴史的事実でないものは、将来の見通しに対する記述であります。本見通しは、当社経営陣が現在入手可能な情報に基づき判断したものであり、環境等の変化により大きく見通しの変動する可能性があり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。今後、重要な変化がある場合は適切に開示してまいります。

本プレゼンテーションの基本的な数値の記載は、一部を除き百万円未満を切り捨てて表示しております。

- ・デジタルアーツ/DIGITAL ARTS、ZBRAIN、アイフィルター/i-フィルター/i-FILTER/i-FILTER EndPoint Controller、m-FILTER/m-FILTER MailFilter/m-FILTER Archive/m-FILTER Anti-Spam/m-FILTER File Scan、D-SPA はデジタルアーツ株式会社の登録商標です。
- ・FinalCode は株式会社アイキューエスの登録商標です。
- ・その他、記載された会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です

DigitalArts®

-より便利な、より快適な、より安全な
インターネットライフに貢献していく-